総務企画常任委員会（続き）

全庁を挙げての山村地域振興策を提言

群馬県は多くの山村地域を抱え、その多くの地域では過疎化が進み、活力が失われつつあります。高崎市も合併を経て他人事とは言えない重要課題となっております。大澤知事も「山村地域の活性化なくして群馬県の活性化はない」と意気込みを述べてはいますが、残念ながら効果的な施策は打てていない状況です。

後藤は、山村振興策を企画部が形の上では所管していながら、「グリーンツーリズム」は農政部、「農村観光」は観光局、「森林資源を活かした産業創出」は環境森林部といったように、事業については個々バラバラに行っている実態を指摘し、企画部が部局横断的に推進する体制を作ることを提言しました。

特に、今年度知事の肝煎りで作られた「総合政策室」がその名の通り役割を果たすべきではないかと指摘しました。

高経大生と共同による農村・都市交流イベント「たかさき昼市」も元気に継続中

先進的な森林整備の取り組観察（栃木県矢板市）

地域活動三二報告

町内の要望を受け、道路の安全対策を行いました。（飯塚地区）

交差点巻き込み防止のポールコーンを設置

追川通りAFLAC西側

交差点を注意喚起するよう表示を改善

飯塚第3町内会館北側交差点

エネルギー対策特別委員会

企業の節電対策の支援を

夏の計画停電回避に向け、群馬県は「節電応援プログラム」を策定。しかし、その中身は啓発が殆どであり、企業に対しても説明会や制度融資の紹介にとどまっています。これで本当に15％の節電を達成するつもりなのか疑問が拭えません。

最大の問題はピーク時（午後2時頃）の消費電力をいかに抑えるかであり、電力消費の約7割を占める産業・業務部門（企業・官公庁等）の協力が不可欠になります。

後藤は、富士重工が平日休業を検討するなどの動きが出つつあることを受け、企業が自主的な取り組みをする上で、保育所などの環境整備面での支援が必要となることを指摘し、実効ある支援策を求めました。

緑化フェアの精神を忘れるな

「節電応援プログラム」において、「緑のカーテン」普及という趣旨で西洋アサガオの種を3万人分配布するなどの啓発活動を行っています。しかし、忘れてはならないのが、H20年度に行われた「全国都市緑化フェア」です。20億円以上もの予算をかけて緑化技術・精神の普及啓発を行った成果が今こそ問われています。

後藤は、緑化フェアを契機に温暖化対策として紹介された屋上・壁面緑化の技術や校庭の芝生化などの取り組みが、フェア終了後において全く推進されていない現状を指摘し、大規模イベントを一過性のものにしない姿勢が必要であると提言しました。

木質バイオマス発電の推進を提言

太陽光のみならず、群馬県では関東一の森林県でありながら、その利点を活かした「木質バイオマス発電」についても大変遅れています。本県で近々操業を開始する木質バイオマス発電所である「吾妻バイオパワー」も、渋川にできた「北部県産材センター」に集まるC材（低品質の材）を燃料に使いたい意向はあるものの、価格がネックになり実現の見通しは厳しいものがあります。

後藤は、昨年視察してきた、行政の強力な後押しで木質バイオマス発電を推進する高知県の取り組みを紹介し、「森林県群馬」の名に恥じない推進策を行うべきと指摘しました。